

これはベトナムだけのことではないのです。インドネシア、フィリピン、ビルマ（今のミャンマー）、インドなど、ほとんどの国にこんなことがあったのです。結果として、アジア諸国はもちろん、アフリカ、南米に至るまで、植民地は一つも無くなったではないですか。「アジア諸国を侵略した」派の人達は、これにどう答えるのでしょうか。

戦争とは、自国の国益のため、民族のため、自分の宗教のため、すべて自分のためにやるものです。地球上から人種差別をなくし、植民地をなくすという、大義のために戦争をしたのは世界史上日本だけです。それを聖戦といわずして、なんと言えればいいのでしょうか。

その結果、日本は負けました。しかし、我々の祖先は大義のために血を流したという誇りだけは失ってはならないのです。

その「証拠物件」を展示しているのが戦争博物館です。

戦争博物館の創設者であり、長く館長を務めていた栗林白岳氏が昨年（平成31年）3月に亡くなりました。その年の、元号は令和に代わった8月15日、私は、栗林白岳氏の写真を掲げて靖国神社に参拝しました。多くの人が寄ってきて「栗林館長が亡くなったんだってねえ。これから戦争博物館はどうなるんだろう。残してほしいものだ」と、話しかけてくるのです。

私は「これだけ多くの応援団がいるのだ。戦争博物館はつぶしてはならない。立ち上がるのは俺しかいない」と確信しました。

あれから1年、不思議な1年でした。不思議とお金が集まり、協力者が集まり、力も地位も名誉もない私ですが、博物館継続実現の目途が立ってきました。

ある人が言いました。「戦争博物館て、パワースポットだなあ」と・・・。

そう、戦争博物館は、英霊か、栗林館長の御霊か、神か仏かはわかりませんが、人智を超えた何者かに守られているのです。

必要になった時、必要なお金が、人材が自然に集まってくる、戦争博物館に仇なすものには天罰が下る、戦争博物館て、そんなところなのです。 以上

7

コラム

日本会議新潟支部理事 本間健一郎 氏



罪深い日本の大手メディアのコラム

～朝日新聞「天声人語」、不愉快な思い出～

8月23日定例会で、女史会の田村和美さんの「従軍慰安婦」の講演を聞きました。大変な力演で非常な感銘を受けました。

しかし、話を聴きながら何故か不快感を覚えどうしようもない感情に支配されたのです。それが理由は次の通り。

我々は国を誇りに思い、少しでも良くしたいと思っている。しかし現実はその阻むありとあらゆる組織一大抵はバカな政府？諸機関一が邪魔をしどうしようもない現状に置かれているということ。従軍慰安婦なんて全くの嘘っぱちなのに何故日本は韓国に堂々と言えないのか。

思い出すと学生時代、試験に出るから天声人語を読めと。読んでいく内に実に不愉快でどうしようもない感情、情けないやら、悔しいやら、歯がゆいやら・・・。嗚呼、我が祖国はこんなにもダメな政府が統治するダメな国なのか。ダメになる一方だ!!こんな不愉快な思いをするなら読まぬ方がよい。

私は日本会議を辞めようと思いました。不愉快な思いばかりして行動にも移さず面白くない。でもコラムを書くに当たり、もう少しよいかと思っています。



・ 入道見て 目もはずしてと
・ 大船に乗ったつもりが せがむ孫
・ ビアスマではずして測る 難破船
体重計
(抜粋)

編集後記

安倍元総理の辞任表明後、ある世論調査では支持率が71%になったと言う。特筆すべきは若年層（18歳～29歳）が95%、30代が75%、最も低い所で60代の61%であったこと。

マスコミ団子に左右されない若い感性を心強く思い、トンネルの中で光を見つけた気持ちになった。安倍政策を継承する菅総理に、大いに期待したい。 (寺澤記)